

事業ドメインとキーテクノロジー

創業以来、光学技術を磨き続ける「科学事業」。電子映像技術の最先端研究を牽引する「映像事業」。そして、これらの技術を活用して成長を続ける「医療事業」。各事業で培われたテクノロジーがオリンパスの最大の強みであり、世界一流の製品づくりを実現しています。

消化器内視鏡シェア (世界): **70% No. 1**

医療事業

オリンパスのテクノロジーが支える圧倒的な世界シェアと成長力

1950年に世界で初めて実用的な胃カメラを開発したオリンパスは、それ以来世界最先端の消化器内視鏡製品を生み出し続けることで、圧倒的な世界トップシェアを維持してきました。この製品開発を支えているのが、顕微鏡やカメラを通じて培われた光学技術や電子映像技術です。

さらに、消化器内視鏡で培った技術を外科分野でも活用することで、製品領域を拡大し、さらなる成長を目指します。



上部消化管汎用ビデオスコープ (消化器内視鏡)



バイポーラ高周波・超音波統合エネルギーデバイス [THUNDERBEAT]



ディスポーザブル高周波ナイフ [ITknife nano] (処置具)



医療事業

収益、成長の
ドライバー

キーテクノロジー

光学技術

光学計測技術／
先端光学技術／
次世代光学設計技術

電子映像技術

イメージャー技術／
デジタル画像基盤技術／
高速通信技術／システムLSI

生物顕微鏡シェア(世界): **30%~40% No. 1**

科学事業

顕微鏡から始まり、カメラ・内視鏡へと受け継がれる

光学技術の源泉

世界トップレベルのシェアを持つ生物顕微鏡はオリンパスの創業事業であり、コアコンピタンスである光学技術の源泉です。顕微鏡の重要部品であるレンズの加工技術は、美しい画質を実現するカメラレンズや、細い内視鏡の先端に取り付ける極小サイズのレンズ等、各事業の主力製品に欠かせないものです。



科学事業

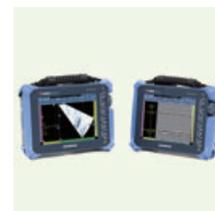
光学技術、成長の
ドライバー



倒立型リサーチ顕微鏡「IX83」



工業用内視鏡
「IPLEX」シリーズ



超音波フェーズドアレイ探傷器
「OmniScan SX」シリーズ

ミラーレス一眼カメラシェア(国内): **30%(*) No. 1**

映像事業

最先端の電子映像技術を生み出す技術革新のドライバー

製品開発のサイクルが短く、多くの競合メーカーとの激しい競争にさらされるカメラ事業で生まれた最先端の電子映像技術は、他の事業にも恩恵をもたらしています。例えば、デジタルカメラの開発によって獲得したデジタル映像技術は、内視鏡をファイバースコープからビデオスコープへと進化させました。

* 2013年1月~12月のミラーレス一眼の当社国内販売シェアは28.8% (GfK Japan調べ)



映像事業

光学・画像技術の
ドライバー



ミラーレス一眼カメラ
「OLYMPUS OM-D E-M10」



ミラーレス一眼カメラ
「OLYMPUS PEN E-P5」



コンパクトデジタルカメラ
「OLYMPUS STYLUS
TG-3 Tough」

精密技術

精密制御技術/
精密実装技術/
MEMS技術/超小型デバイス

生体基盤技術

生細胞解析技術/
細胞分離・培養・評価技術/
遺伝子導入技術

中期ビジョン（中期経営計画）

当社は2013年3月期を初年度とした5カ年の中期ビジョンを推進しています。中期ビジョンのスローガンを「原点回帰」とし、オリンパス創業の原点に立ち返り再出発をすることで、ステークホルダーからの信頼を回復し、オリンパスの再生と、新たな企業価値の創造を目指します。

新経営体制の経営方針



経営方針に基づく基本戦略



評価指標と目標水準（連結）

評価指標	2013年3月期 (実績)	2014年3月期 (実績)	2017年3月期 (目標水準)
投下資本利益率 (ROIC) ^(*)	2.7%	5.9%	10%以上
営業利益率	4.7%	10.3%	10%以上
フリー・キャッシュ・フロー (営業CF+投資CF)	587億円	521億円	700億円以上
自己資本比率	15.5%	32.1%	30%以上

^{*} 投下資本利益率 (ROIC) について
 企業が事業に投じた資金が、どれだけ効率的に利益を上げているかを示す財務指標。当社では、以下の前提により算出しています。
 $\text{Return (税引後営業利益)} \div \text{IC (株主資本+有利子負債)}$

基本戦略遂行の成果を、「投下資本利益率 (ROIC)」、「営業利益率」、「フリー・キャッシュ・フロー」、「自己資本比率」の4つの指標でモニタリングしています。

営業利益率、自己資本比率については、2017年3月期目標水準を3年前倒しで達成。ROIC、フリー・キャッシュ・フローについても目標達成に向けて着実に進捗しています。

数値計画（連結）

	2014年3月期	2015年3月期 ^(*)	2017年3月期
	実績	見通し	目標
売上高	7,133億円	7,600億円	9,200億円
営業利益 (営業利益率)	734億円 (10%)	880億円 (12%)	1,430億円 (16%)
経常利益 (経常利益率)	509億円 (7%)	700億円 (9%)	1,250億円 (14%)
当期純利益 (当期純利益率)	136億円 (2%)	450億円 (6%)	850億円 (9%)

^{*} 2015年3月期の目標値は、2014年5月9日に発表した見通しに基づく数値です。

Our Progress under Review

新体制発足から2年間の歩み

2012年4月の新体制発足後、当社は中期ビジョンに基づく戦略を迅速に進めてまいりました。

ここでは、2年間の主な取り組みを事業別に紹介します。

コーポレート（経営・その他）

2012年	4月	臨時株主総会を開催、新経営体制が発足
	6月	新経営体制のもと、新しいオリンパス創生に向けた「中期ビジョン」（中期経営計画）を発表
	8月	情報通信事業の譲渡を発表
	9月	ソニー株式会社と業務・資本提携を発表
2013年	5月	映像事業の再建プランを発表
	6月	東京証券取引所による当社株式の「特設注意市場銘柄」の指定解除
	6月	役員報酬にストック・オプション制度を導入（業績・株式価値と連動）
	7月	海外市場において新株式発行および自己株式の処分により、1,126億円の資金調達を実施
2014年	2月	バイオリジクス事業からの撤退を発表

医療

2012年	2月	欧米でバイポーラ高周波と超音波の統合エネルギーデバイス「THUNDERBEAT（サンダービート）」を発売
	4月	欧米で消化器内視鏡システム「EVIS EXERA III（イーヴィス エクセラ スリー）」を発売
	11月	国内で消化器内視鏡システム「EVIS LUCERA ELITE（イーヴィス ルセラ エリート）」を発売
	12月	国内製造拠点（会津、白河、青森）に約200億円の投資を決定
2013年	4月	3D・4K技術を使った外科内視鏡関連の製品開発を目指し、ソニーとの合弁会社「ソニー・オリンパスメディカルソリューションズ株式会社」を設立
	4月	欧米で外科手術用3D内視鏡システムを発売（世界初となる先端に湾曲機能を搭載した3Dビデオスコープも同時に発売）
	11月	中国において上海、北京に続き、当社最大のトレーニング・サービスセンターを広州に設立

科学

2012年	6月	製造拠点の合理化や事業効率向上を図り、フイリピン工場を閉鎖
2013年	7月	ライフサイエンス分野における戦略製品、レーザー走査型顕微鏡「FLUOVIEW（フロービュー）FVMPE-RS」を発売
	7月	産業機器分野における戦略製品、超音波探傷器の最小・最軽量タイプ「OmniScan（オムニスキャン）SX」シリーズを発売
2014年	4月	事業名を「ライフ・産業」から「科学」に変更。商品群別戦略から顧客群別戦略にすることで事業効率・資本効率を高め、収益性の改善を図る

映像

2012年	3月	ミラーレス一眼の戦略モデル、OM-Dシリーズのミドルクラス「OM-D E-M5」を発売
2013年	5月	映像事業の再建プランを発表 5拠点から2拠点体制（シンセン、ベトナム）への再編が完了（2014年3月期中）
	10月	フルサイズ一眼に匹敵する画質を提供するミラーレスOM-Dシリーズのフラッグシップ機「OM-D E-M1」を発売
2014年	2月	OM-Dシリーズの普及価格帯モデル「OM-D E-M10」を発売

過去2年間の当社株価推移

